

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3771300393
法人名	医療法人社団一真会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3 (電話) 087-890-3151

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月26日	評価決定日	平成19年10月24日

【情報提供票より】(19年 7月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 2月 28日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	19人 常勤 17人、非常勤 2人、常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 5階建ての2階～4階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000～43,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (家賃1か月分) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,150円			

(4) 利用者の概要(7月 20日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	8名	要介護2	9名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	66歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一真会 川人外科内科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体である医療との連携は緊急事態の安心安全につながり、デイケアセンターとの交流は地域につながるように、関連施設の強力なバックアップの利点を活用しながら、グループホーム独自のあり方を、常に追求している管理者と職員集団である。また、運営理念にあるように、地域に根ざすことを目標に、地域との付き合いにも力を注いでいる。個人の希望や意向の聞き取りが丁寧で、聞き取ったことを実現させている個別処遇は優れたものがある。入居者も安心して、一人ひとりが持てる力を発揮し過ごされている。ホームも明るく清潔であり、家族の面会などが多く、活気がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であるアセスメントと計画の流れについては、職員全体で話し合い、意識して取り組み、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、カンファレンスや職員会議の議題として職員から聞き取り、グループリーダーが中心でまとめたのが現状である。職員一人ひとりが自分の介護を見直す機会と捉え、自己評価を活用することを今後の課題として欲しい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度取り組み、グループホームの現状が、その時々々の課題を中心に詳しく報告されている。参加者の方から意見が出されるまでに至ってないが、参加者の幅を広げる工夫が見られるので、今後地域に浸透することが期待できる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多くあり、ホームをオープンにして、いろいろな方を受け入れている。家族の方との関係も良好で、苦情などは出ていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>荒神さんの草取りに始まり、近隣の寺の行事に参加する等、地域に根ざしている。ボランティアの受け入れも多く、いろいろな方の支援を得ている。納涼花火大会等のグループホームの行事には、たくさんも人が来られ、楽しむことができた。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域に根ざすことを運営理念に掲げ、高齢者が地域で安心して暮らせることを目指している。理念は定着している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を中心に職員一丸となり、理念の実践に向けての取り組みが随所に見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームのすぐ横にある荒神さんの草取りをしたり、地域の寺の護摩供養、秋祭りなどに積極的に参加している。また、イチゴ狩りなどにも出かけ、地域の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員が前年度の評価を活かして、具体的な改善に取り組み、成果をあげている。外部評価の意義などを、運営推進会議の議題にもあげ、積極的な活用が見られる。	○	自己評価は丁寧に行っているが、一人ひとりが処遇を見直す機会と捉え、全職員に全項目の自己評価を今後の課題として欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回行っている。現状はグループホーム側からの報告が中心である。参加するメンバーを新しく加えたりする努力が見られるので、充実が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が気軽に庁舎に出かけ、担当者との情報交換に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>便りを作成して、一人ひとりの暮らしぶりを丁寧に報告している。面会が多いのがグループホームの自慢であるらしく、多くの家族の出入りが見られる。面会時を利用して、いろいろな報告がなされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会もあり、苦情や意見も受けられる体制は整っている。面会が多く、ホームもオープンな姿勢をとっているため、苦情などはないようである。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限にして、開設当初からの職員が多い。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県や町主催の研修会は、参加できるよう配慮している。ホーム内の勉強会も活発で、経営母体の医師による研修も行われている。職員自らも意欲があり、資格取得者が多く出ている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者間やそれに近い施設の訪問や、交流を積極的に行っている。入居者も同行し、交流を図る取り組みをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらうことや、家庭訪問などを通じ、家族と相談し、馴染みの関係を作りながら、利用をしてもらうように進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一人ひとり丁寧に趣味や特技など聞き取り、最大限活かせる努力ができています。その成果が、音楽、料理、園芸、室内装飾などに活かされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴介助などの1対1で入居者と向き合える時に、ふと漏らした本人の希望や意向等をきちんと捉え、職員間で検討し、希望の実現ができています。きめ細かい個別処遇ができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスでしっかり話し合い、また、家族の意見も面会時に聞き取る等、みんなの意見を介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスで、利用者の変化など見落とさない話し合いをし、利用者の現状に即した対応ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時には医療施設との連携ができ、家族も安心している。本人の希望や必要に応じて、デイケアに通ってくる近隣の方との交流もできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医に受診する支援も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や緊急時の対応についての話し合いがあり、確認書が取り交わされる。方針が統一され、明確である。また、事態の変化があれば、その都度、話し合いが持たれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	丁寧な聞き取りができ、その人らしい生活ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常はデイサービス部門との一括調理になっているが、ホーム独自に、一日一品つくることや、ご飯は必ず炊くことにしている。また、おやつ作りや、時には全食作る等の工夫が見られる。職員と利用者が、一緒に楽しい食事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようにし、職員と利用者のコミュニケーションとスキンシップの場としている。利用者の本音が聞け、希望や意向を知る機会にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	経験や特技が発揮できるような場面づくりを心がけている。ピアノができる人にはピアノが弾ける時間を確保したり、絵が好きな人には絵画鑑賞の機会を作るなど、楽しみごとや気晴らしの支援ができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事や買い物など、外出の機会が多くあり、楽しい生活が送られている。	○	車椅子の方や、あまり外出のできていない人にも外出の機会を作りたいという介護者の熱意があるので、個別処遇の充実に向けて、今後一層の取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関、エレベータには鍵はなく、常に見守るケアが徹底している。鍵をかけないケアに対する意識が高い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防職員が来訪して、年2回の防火訓練の実施をしている。119番通報システムも完備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもとに、適切な栄養摂取や水分の確保ができています。記録も丁寧に取られています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館清潔が保たれている。利用者と職員の手づくりの壁面装飾は季節感が感じられ、温かい雰囲気をかもし出している。利用者の家族や職員が持ち込んだ、季節の花が活けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居歴の長い人の部屋は、いろいろなものが持ち込まれ、その人らしい居室ができています。それぞれの大切なものが持ち込まれ、居心地のいい空間になっています。		